



すごい彗星になるかどうかくらい、予想できないの？

彗星は太陽に近づけば近づくほど、氷の蒸発が活発になり、明るく立派になるはずですが、また、彗星と地球との距離が近い場合も、彗星は明るく見えます。彗星と太陽や地球の距離は、彗星の軌道が観測できちゃんと決まった時点で、ほぼ間違いなく計算することができます。

その一方で、彗星が太陽に近づいたときに、どれほど活発に氷の蒸発が起こり、尾が伸びるのか、という点については、非常に不確かです。過去に何度も太陽に近づいた彗星であれば、過去の観測からある程度の推測はできるのですが、今回のパンスターズ彗星のように新発見の彗星では、不確かな予想しかできません。

特にしっぽが伸びるか、見えるか、という点では、彗星の予想はあまりアテにできないのが現実です。

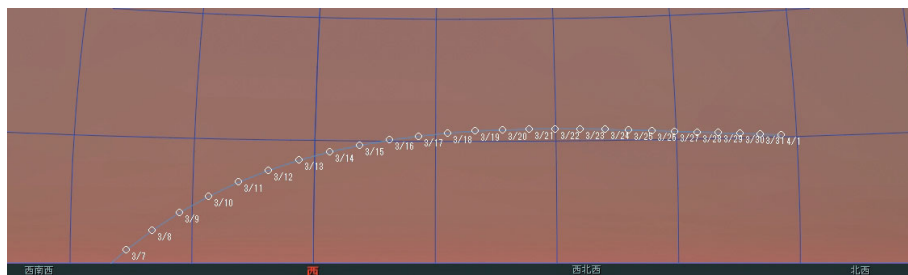
簡単に見つけられる？どうやって探す？

立派になるかどうかはともかくとして、彗星の位置は計算で正確に予報できるので、パンスターズ彗星を見るために、いつ、どちらを見ればよいかを説明していきます。明るさの予測も一応書いてありますが、大まかな目安でしかありません。

3月中旬

3月6日以前については、まず間違いなく日本からは見えません。(オーストラリアなど、南半球では見ることができます。)

3月10日前後から、日本でも見えるチャンスが出てきます。日没後の西の空です。パンスターズ彗星が太陽に最も近づくのが3月10日ですから、彗星自体の明るさは、この頃が一番明るいはずですが、順当に行けば、彗星の明るさは0等から-1等に届くと予想されています。しかし、彗星が明るくても、太陽のすぐ近くに位置していますから、どうしても夕焼け空の中を探さなくてはならないので、見えやすいかどうかは疑問です。太陽が沈んだ後、双眼鏡で夕焼けの中を探していくことになるでしょう。特に10日頃は、日没から彗星が沈むまでの時間もあまりありませんから、時間との勝負の中で彗星を探すのはそれほど簡単ではないと思います。



日没30分後の、パンスターズ彗星の位置



一つのチャンスは、3月13日です。この日は、とても細い月が日没後の空に現れます。月自体もとても細いので、双眼鏡が無いと見つけづらいと思いますが、月の左下約3.5度にパンスタース彗星が位置していますので、双眼鏡で一緒に見えるでしょう。

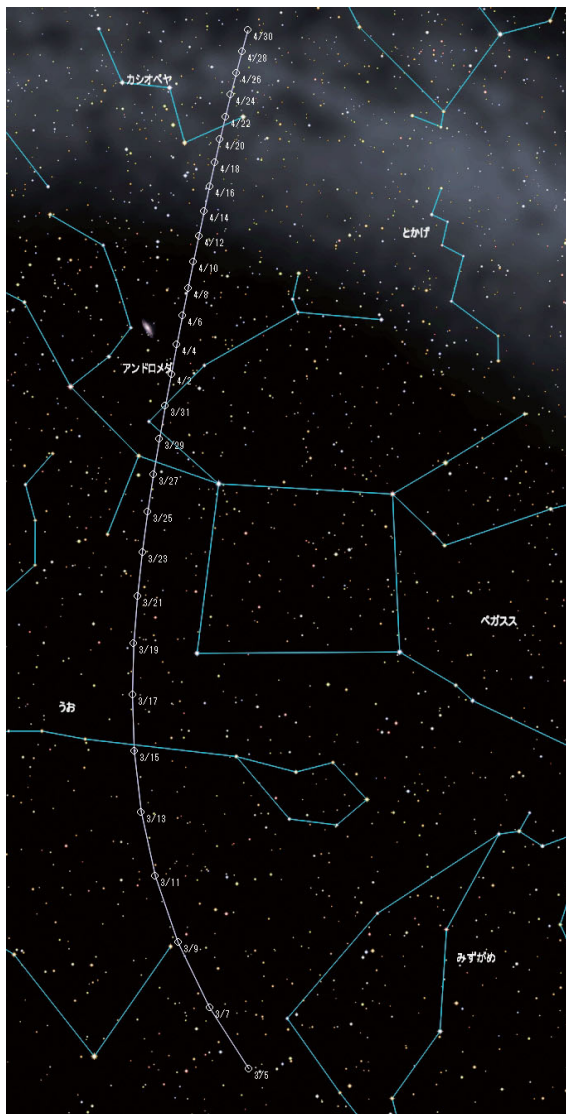
3月下旬

相変わらず日没後の西～西北西の低空を探ることになるのですが、日没から彗星が沈むまでの時間的な余裕が少し増えるので、ちょっと周囲が暗くなり始めるのを待つ余裕もできて、探しやすいはなるでしょう。彗星自体は太陽から遠ざかりつつありますので、彗星自体の明るさやしぼの見え方については、しぼんでいく方向になります。順当であれば、彗星の明るさは2等くらいを維持しているようですので、双眼鏡で位置を見つけてしまえば、肉眼でも見える可能性もあります。

また、夕方だけではなく、夜明け前にも東北東の空の低空に観察できるチャンスが出てきます。

4月上旬

夕方の観測条件は相変わらず低空のままです。彗星が北に移動して、北西の方向になります。一方明け方の観測条件は良くなっていきます。月明かりがありま



パンスタース彗星の移動(各日3:00JST)

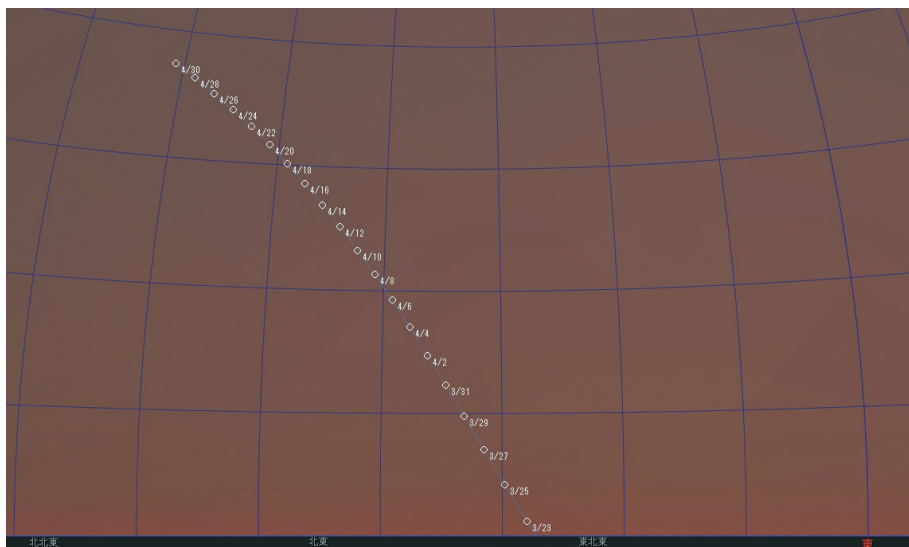


すが、4日頃は、アンドロメダ銀河の近く(離角約3度)を通るので、軽望遠レンズで写真を撮るには良いシャッターチャンスになります。彗星の明るさも3等から4等を維持していそうです。

4月中旬

彗星自体は、ますます暗くなるはずですが、明け方の月明かりが無くなり、夜明け前にはそこそこの高さに上るようになるので、都市光の無い観測地で、正しく望遠鏡を向けることさえできれば、彗星を見ることは難しくはないでしょう。

4月20日前後に、カシオペア座を通過していくので、彗星の位置を把握するのは簡単になってきますが、順当にいけばこのころの彗星の明るさは5等です。都市部で小さな双眼鏡しか機材が無ければ、そろそろ見つけづらくなってくる時期です。



日の出30分前の、パンスタース彗星の位置

最大の敵は黄砂か

「春霞」という言葉があることから分かるように、春は大気の透明度が下がる季節です。特に黄砂が飛来すると、太陽でさえも水平線に沈む前にかすんで見えなくなってしまいます。一見雲が無いように見えても、遠くの山が良く見えないようなお天気の日には、低空での彗星探しは困難です。逆に、雨が降って寒の戻りが来た後の空は、多少雲があっても雲の隙間の青空はきれいに澄んでいます。大気の澄んでいる日を逃さずに彗星を探しましょう。

※記事中の彗星の位置図はステラナビゲータ(アストローツ)で制作しました
飯山 青海(科学館学芸員)